

城里町の文化財さんぽ(二七)

町指定文化財(彫刻)

「十二神将軍」

指定年月日/昭和四十七年二月二七日
所在地/城里町石塚 管理・所有者/薬師寺

十二神将とは、宮毘羅・伐折羅・迷企羅・安底羅・頻伽羅・珊底羅・因達羅・波夷羅・摩虎羅・真達羅・招杜羅・毘羯羅の十二神で、薬師如来を守護する武神です。十二の方角や時、そして十二支の守り神ともされています。

町指定文化財の「十二神将軍」は、薬師寺の本尊である薬師如来座像(重要文化財)の前面に横一列に配置された十二神将像です。岩座の上に立つ寄木造、漆下地彩色の木像で、像高は八五〇センチメートルです。玉眼を入れ、頭部には十二支の動物を付けています。甲冑・天衣を着して武器を携え、忿怒の形相で威嚇するこの神将像からは、実際の大きさを遙かに超える迫力が感じられます。

制作年代は、鎌倉時代から南北朝時代にかけてとされています。解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135



亥神 戌神 酉神 申神 未神 午神 巳神 辰神 卯神 寅神 丑神 子神

俳句

星祭保育園に竹運ばれり 鯉淵 寿美恵
露天風呂山百合の香の近く酔ひ 森 静江
花鬼灯久びきに逢ふ四姉妹 今瀬 多代美
真つ直ぐな畝を揺らして青嵐 仲田 まちゑ
鬼灯市を行きつ戻りつ浅草寺 綿引 英子
夏草を引き抜き引き抜き鬼になる 中野 千賀子

梅雨晴間。パツと身体輝けり 飯村 昭子

川柳

枇杷たわわ潮の香りを深く吸ふ 竹内 幸子
枇杷食べて顔ほころべり枇杷の里 瀬谷 博子
七月や我が誕生は後の月 岩下 金司
夏の日を掴んで落とす水車かな 田口 勝元
あじさいや園のあちこち投句箱 寺門 孝子
都議選の勝敗決めた舌禍砲 富田 多蔵
手を合わせにぎった数で初当選 車田 綾子
雑草に「強く生きよ」と励まされ 飯村 孝一
日暮しのいつせいコダマ里山に 川原 清

文芸しろさと

短歌

わが窓を開ければ燕の翻り 五月の風と部屋に入りくる 青柳 京子
郵便のポストまで行く道の辺にタンポポの花咲きて明るし 所 美恵子
五月晴れ眞子とましまの婚約をテレビは報ずる清しき御姿 山形 式妙
今日も無事に吾は老いたり嫁の料理の熱きみそ汁美味いと喰べて 杉山 みちこ

辛き日も楽しき日もあり思い出と共に仕舞ひぬ冬のコートを在りし日の夫との旅に求め来し都わすれのむらさき愛し 渡辺 千紗子
亡き父が「せせらぎ」という俳句誌の主宰たりしを知りて驚く 大森 久子
病院の待合室に幼児をあやす若き母子に遠き日恋ふる 枝 不美
クロッケの出番待ちあるベンチにて鶯の啼く木立ち見上げる 信田 育子
頂きし造花なれども美しく部屋にかざれば心みたさる 坪井 きよ子



さわさわと瀬音をたてて梓川うぐいす鳴きぬ森を流るる 萩谷 登喜子
まじまじと我を見つめてホッと笑む曾孫は一年二ヶ月となり 富田 佐智子
故郷の民謡収録観賞し夫と友と至福の時を 富田 欽子
咲いてます梅雨からつゆへ喜んで葵の花は我が家忘れず 富田 欽子